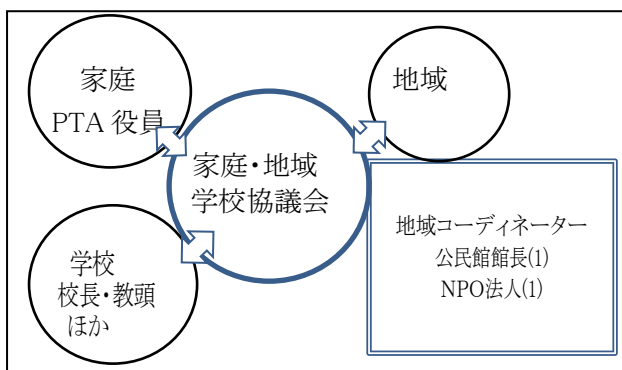


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

2月6日(PTA役員会に兼ねて実施)

- ・ 教育目標に基づく学校の取組について
- ・ 学校評価に係るアンケートの結果を受けた検討(家での読書、情報モラル、挨拶、生活リズム等)
- ・ 学校の業務改善について(学級通信、通知表の見直し。行事に関する見直し)
- ・ 評価書作成と次年度への提言

(3) 協議会における成果と課題

- ・ 子どもに関する課題を家庭や地域と共有できた。
- ・ 業務改善について、通知表や学級だより等の簡略化については概ね肯定的な意見であった。行事については、外からは負担が見えにくく意見が出しにくいという発言があった。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・ ふるさとのよさに気づき、ふるさとに誇りと愛着をもち、主体的によりよくしようとする児童の育成
- ・ 地域の人や場所とつながりを持ち、体験から学んだことから考えを深めたり他者に発信したりできる児童の育成



(2) 活動の実際

① 「NISHI(にし)6(ろく)かふえ」(空き家活用) (6年生)

平成29年度の6年生が、NIE学習で美浜町の空き家問題の記事を目にし、「私たちに何かできないか」とこの取組を始め、今年で3年目になる。空き家を店舗として乳幼児の親子を迎え、お母さんにも赤ちゃんにも楽しんでもらえる場所と時間を提供しようと、カフェを企画・運営した。

まず、児童はカフェを実施するために、空き家の内外の掃除や草取りを行った。年に1、2回清掃を行うことは、「空き家アイドル」といって、家を維持するためにも役に立つ活動である。児童は自分たちの清掃活動が、カフェに来る方だけでなく、空き家の維持にもつながる意味のある活動と理解し、意欲的に家の内外の掃除や草取りに取り組んだ。

11月21日(木)に美浜町金山で「NISHI(にし)6(ろく)かふえ」を実施した。事前に美浜町子育て支援センターを訪問し、乳幼児に接することによって大切なことを学んだり、カフェのチラシを配ったりした。学校では、児童がキッズ係、カフェ係などに



分かれ準備を重ねた。

当日、カフェには定員いっぱいの14組25人の親子が訪れた。カフェ係が大人に飲み物を提供してい

(様式3)

る間、キッズ係が乳幼児を相手にリズム遊びなどを行い、心温まる時間となった。来ていただいた親子は喜んで帰られ、空き家提供者の方からも感謝の言葉をいただいた。児童は地域に貢献できたことを実感し、誇らしげな様子だった。



② ふるさと美浜元気フォーラムの取組 (6年生)

町内3校の6年生が今年度初めてフォーラムを開催した。3校合同での活動は、昨年度の国体ボート会場でのPR活動に続き2度目である。

各校では、取材活動などを通し美浜町のよさと課題を把握し、課題の改善に向けたアイデアをグループ単位で考えた。本校では、空き家活用カフェの実施から学んだことを軸に、美浜町の大きな課題である空き家についての提言をまとめた。

12月13日のフォーラム当日には、会場である生涯学習センター『なびあす』に戸嶋町長をはじめ多くの町の方に来ていただき、自分たちの考えを堂々と発表した。ポスターセッションでは、大学との連携で空き家を活用する案、空き家とドローン技術を活用した物流システム案など、アイデアが数多く提案され、参加者は興味深げに聞き入っていた。

③ 高齢者の方に元気を届ける「敬老の手紙」 (全学年)

9～10月に地域や高齢者施設で行われる敬老会に合わせ、75歳以上の方へ敬老の手紙を書き届けた。少子化の影響で、135人の児童が約700通の手紙を書くことになるため、児童が書いたものをカラー印刷で増やし配付した。手紙では、高齢者の方に「お元気で」というメッセージとともに、自分の好きな教科や頑張っていること等がイラスト入りで紹介されており、受け取った方は笑顔で読んでおられた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・ 空き家の家主との連絡や依頼、空き家アイドリングや清掃の意義の説明、清掃指導、諸手続
- ・ 「敬老の手紙」の数の集約と配付



(4) 特に工夫した事項

- ・ フォーラムについては、コーディネーターよりも町役場との連携に関わる内容（会場確保、参加協力依頼事前協議、バスの手配、広報等）が多かった。



(5) 成果と課題

本校の今年度の教育目標は、「ふるさと教育の推進～美浜に誇りと愛着を持ち、夢や目標に向けて努力する子ども～」であり、今回の取組はその中心となる取組である。今年度、多くの方に協力を得て、児童は数多くの経験をする事ができた。児童自身が主体となって考え、話し合い、運営し、多くの人から評価を得るというプロセスを体験する事ができた。この経験は、「美浜への誇りと愛着の育成」に、十分つながったと考えられ、加えて大きな自信と自己有用感の形成にもつながったと思われる。

しかし、「夢や目標に向けた努力する」につながったかは、更に検証が必要であろう。そのためにはカリキュラム全体を横断的に見直し、総合的な学習の時間と各教科との関連を明確化する必要がある。将来、児童が主体的に課題に関わり、目標の実現に努力できる人材になることを目指し、引き続き指導を充実させたい。

(様式 3)